

事務事業評価シート(平成21年度)

(ソフト事業)

(A面)

1 事務事業の概要 <Plan①>		担当課	課長名	記入者
		生涯学習課	安田一司	藤浦美由姫
事務事業名		新規・継続	事業開始年度	完了予定年度
文化会館自主公演事業		新規	年度	年度
		○継続	○ H20以前	○ 未定
事務事業の体系				
計画 掲載	多可町総合計画	(章) 2 笑顔でつつむ、あったかいまち	(節) 2 学ぼう、活かそう	
	個別計画	(基本計画) 地域文化・芸術文化の振興		
根拠法令・条例・要綱等		事業区分(該当する区分に「○」)		
多可町文化会館条例		○ ソフト事業	施設の維持管理	
多可町文化会館運営評議員会設置要綱		義務的事業	内部管理事務	
事務事業の具体的内容		建設・整備事業	計画などの策定	
評議員会の開催により、住民ニーズの把握による自主公演事業の企画を行う。また、友の会だより等を発行し、事業への理解・集客につながる情報提供を行う。		補助金の支給	○ 有	無
		委託	全部委託	一部委託
		○ 委託なし(全部直営)		

2 事務事業の目的 <Plan②>		
対象 (働きかける相手・誰が・もの)	受益者 (誰を・何を)	意図 (どういう状態にしたいのか)
文化会館を利用する町民、団体等	町民	多くの地域住民が参加できる特色ある文化育成事業の展開を図る。

3 事務事業にかかる予算細目 <Plan③>		会計名	一般	会計
細目名	文化振興事業	細目名	文化会館事業	細目名
予算コード	款 項 目 大事業 10 5 8	予算コード	款 項 目 大事業 10 5 9	予算コード

4 事務事業実施にかかるコスト <Do①>							
事務事業・人員		単位	20年度 決算	21年度 実績(見込)	22 年度 計画	備 考 (全体事業費など)	
総 コ ス ト			33,007	27,846	29,348	H22度に関館20周年記念事業を開催	
コスト の内訳	直接事業費	千円	18,000	18,000	19,000		
	所属内間接費		358	264	766		
	人件費		14,649	9,582	9,582		
	投入人員	正職員 嘱託員	人/年	1.93	1.23	1.23	
財源 内訳	国・県支出金		千円			ふるさとづくり事業基金	
	地方債						
	その他特定財源			18,000	18,000		19,000
	一般財源			15,007	9,846		10,348

5 事務事業の手段<Plan④>と活動指標 <Do②>							
事務事業を構成する業務		手段 (事務事業整理シートより)	活動指標 (手段の数値化)	単位	20年度 実績	21年度 見込	22 年度 目標
1	住民企画事務	住民アンケートによる情報収集や企画会議を開催	自主公演回数	回	18	17	20
2	宣伝活動事務	友の会員募集、広告媒体による情報発信、HPへの掲載	会員数	人	192	280	300
3							
4							
5							

(ソフト事業) (B面)

6 事務事業の実績 <Do③>		事務事業名 [文化会館自主公演事業]			
成果指標(意図の数値化)	単位	20年度 実績	21年度 実績(見込)	22 年度 目標	備 考 (成果指標の考え方・計算方法)
公演来場者数	人	4,322	4,479	5,000	・公演来場者数は有料入場者とプレイベント参加者の計。
券売率	%	87	86	88	・券売率はチケット販売数を客席数で乗じた率(80%以上で成果)

7 事務事業の事後評価 <Check>				(ソフト事業)					
チェック項目				該当項目に「○」				担当の把握している課題	
必要性	需要への 対応性	住民ニーズは	○ 高い	高くない	把握なし		住民ニーズの把握が 難しい。		
		緊急性は	○ 高い	高くない					
		利用者・対象者数は	○ 増加	減少	横ばい				
		他市町と比較して対象者に見直しの余地は	ない	○ ある	把握なし				
	町の関与 の必要性	民間の事業(サービス)との競合は	○ ない	ある					
		国や県の事業(サービス)との重複は	○ ない	ある					
妥当性	サービス 水準の 妥当性	事業開始時から社会環境の変化は	ない	○ ある			芸術鑑賞への関心度 向上のためのさらな る工夫によりサービス の提供を行う。		
		環境変化によるサービス水準の見直しの余地は	ない	○ ある					
		他市町と比較してサービス水準の見直しの余地は	ない	○ ある	把握なし				
	連携の 可能性	他課で類似の事業は	○ ない	ある					
		他の事業と統合できる可能性は	○ ない	ある	あるが困難				
		民間や他の行政機関と連携できる可能性は	ない	ある	○ あるが困難				
		市民団体・ボランティアなどと協働できる余地は	ない	○ ある	あるが困難				
効率性	手段・ プロセス の効率性	事務事業を構成する業務に見直しの余地は	○ ない	ある			低料金で鑑賞してもらえ る事業選定や補助事業 の申請等の活用等を今 後も検討していく。		
		コスト削減の観点から実施方法を見直す余地は	○ ない	ある					
		サービス向上の観点から実施方法を見直す余地は	○ ない	ある					
		受益者負担を見直す余地は	○ ない	ある					
有効性	目標の 達成度	成果指標が明らかで	○ ある	ない			地域住民に近くにいな がら本物の芸術に触れ る機会の提供を行い文 化を通じた交流が図れ る環境を作ることは公共 ホールの使命である。		
		前年より成果が上がって	○ いる	いない	横ばい				
	持続の 可能性	継続することによる効果は	○ 高い	高くない					
		世代間負担の公平性、社会的平等性が保たれて	○ いる	いない	測定困難				
		事業の休・廃止による住民への影響は	○ 大きい	大きくない					
市場化の 可能性	既に全部委託済		更なる委託化が可能である		委託化の余地があり		○ 委託化は不可能		
	市場化テストの導入について検討する余地がある			○ 市場化テストの導入を検討する余地はない					
改善の可能性			○ 1.改善の余地はない		2.改善の余地がややある				
			3.改善の余地が多い		4.抜本的な見直しが必要				

事務事業評価書

8 改善提案と今後の改善の方向性 <Action>文化会館自主公演事業

職場からの意見(担当者)									
(課題の解決についての提案など)									
不況の時代だからこそ、心が豊かになり、心の合併がさらに強いものになるためにも、文化の提供は必要不可欠なものであり、劇場は地域の人々が文化に出会い、交流する唯一の広場であると考え。さらなる住民のニーズに応え、ホールの魅力を高めるプログラムづくりを展開し、住民と共に創造する劇場にしていきたい。									
担当課長評価									
(課長としてこの事業をどのようにしていきたいか)									
文化会館自主公演は、多可町の文化情報の発信拠点として多くの住民に認知されている。今後も住民のニーズに応える多様な自主公演事業の展開を図っていく。 文化会館自主公演は、多可町の文化情報の発信拠点として多くの住民に認知されている。より多くの多可町の住民が参加していただける企画や多様な自主公演事業の展開を図っていかなければならない。									
所管評価	○	1. 重点的に継続		2. 現状のまま継続		3.内容を見直しながら継続		4. 縮小を検討	
		5. 統合・連携を検討		6. 休止・廃止を検討		7.終了・完了	内部評価		3
教育長評価									
(教育長としてこの事業をどのようにしていきたいか)									
住民の自主的な活動を支援していきたい。									
事業評価	○	1. 重点的に継続		2. 現状のまま継続		3.内容を見直しながら継続		4. 縮小を検討	
		5. 統合・連携を検討		6. 休止・廃止を検討		7.終了・完了			
評価委員コメント									
関係団体・文化連盟とよく協議し、一体化の方向で検討すべきである。									